

「夏こそは優勝を」



スタンドから声援を送る八学光星の応援団=26日、甲子園球場

兵庫県西宮市の甲子園球場で26日に行われた第91回選抜高校野球大会1回戦で広陵(広島)と対戦した八学光星。3年ぶりの出場で初戦敗退に終わったが、3塁側アルプススタンドで見守った応援団は「お疲れさま」と選手をねぎらいながら、夏の甲子園で雪辱を果たすことを願った。【1ページに本記】

光星スタンド、ナイン激励

生徒や教職員ら約130人が地元・八戸市から駆け付け、メガホンを手に声をかけた。試合は序盤、両チームの投手が息詰まる熱戦を展開。守備で好プレーが飛び出すたびに「いいぞ!」との声が上がった。五回に相手に2点を献上したが、その後も大声援で好機をつくるナインを後押

今の実力かな。夏に向けて頑張るってほしい」とエールを送った。吹奏楽部で部長を務める2年の三津谷花月

(藤野武)

留守部隊も熱い声援



八学光星ナインの好プレーに沸く在校生ら=26日、八学光星高

八学光星高では、バスケットボール部や陸上部の部員ら約130人が、メガホンを片手に、甲子園で戦うナインに届けとばかりに熱い声援を送った。

テレビ中継から流れる同校吹奏楽部の演奏に合わせ、応援歌を口ずさみながら試合を観戦。主戦の後藤丈海投手が粘りの投球を見せ、相手を三振に切つて取

ると、「おおー」というとよめきと歓声が上がった。9回の攻撃では、6番打者の下山昂大選手が安打で出塁すると、両手を組んで祈るように試合を見詰めていた。

初戦敗退となったが、硬式野球部と同様、全国の大舞台での活躍を目指す運動部員にとつて、ナインの戦いぶりは刺激になった。女子バスケットボール部の吉田華主将(17)は「ピンチの場面で主将がチーム全体に声を掛けてくれる姿や、捕手が笑顔でプレーしている姿に勉強させられた」と、逆境をはね返すヒントを得た様子。

陸上部の小笠原大智主将(17)は「夏に向けてさらに強くなってくれと思う。自分たちも夏に全国大会に出るつもりなので、一緒に頑張りたい」とエールを送っていた。(金濱千優希)